

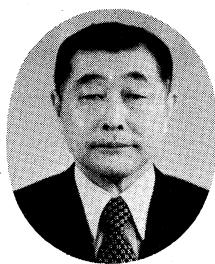
不变の「しつけ」教育を

福島県健康・体力つくり推進協議会長

公立藤田総合病院長

本 宿

尚



【筆者紹介】

本宿

尚・ほんしゅくたかし

大正十四年 東京都に生まれる

昭和二十四年 東北大学附属医学専門

昭和二十五年 部卒業

同二十七年 岩手県立盛岡病院勤務

福島県立医科大学第三内科勤務

同三十三年 同大第三内科講師

同三十四年 福島県厚生連坂下厚生

病院勤務

同三十九年 同病院長

同四十四年 公立藤田総合病院長

同五十八年 福島県立医科大学客員教授

県バスケットボール協会会長、県体育協会常務理事、県スポーツ振興審議会委員、県健康体力つくり推進協議会長等の要職にあり、本県の医学、健康スポーツ活動等に尽力されている。

教育に関しては全くの素人であるが、私なりに教育の目的は、と問われれば、それは、「知育」「德育」「体育」のバランスのとれた発達を目的とする、という表現が一番妥当かと思う。

現在、此の三者がうまく調和がとれていないところに、いじめ、非行をはじめとする種々の問題が起つてゐるのでなかろうか。

大体、此の表現の順序が悪いのであって、「德育」「体育」「知育」の順に表現すべきである。人間は、生物学的に言えば、"ホモサピエンス"という一種の動物である。それが、他の動物と違つて少くとも現時点で、地球上で他の種に君臨していられるのは、「徳」があるからである。

知識、知恵は、勿論、非常に単純なものではあるが他の種にも認めることができる。動物は、親が子を育てることはするが、子どもが、体力の弱つた生産性のない親の面倒を見る、ということはまずあまりない。動物よりわずかに人間が優位なのは、その動物の本能では律しきれない、「徳」という言葉に包含される「しつけ」があるからである。良いしつけのあるなしで、その人間の価値が決つてくるのである。

しつけは、本来家庭で教えるべきものであるが、残念ながら戦後、大部分の家庭で道徳律を失つて